

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆうかり



第21号

鹿児島国際大学社会福祉学会編集

はじまるよ～♪



目次

巻頭言	『ゆうかり』第21号に寄せて	大山朝子	1
社会福祉学科企画行事	2021年度社会福祉学科Miniオープンキャンパス (出前・オンライン開催)について	大山朝子	2
ゆくひと、くるひと ーさよならと、こんにちは	20余年の教員生活を振り返って	田中安平	5
ゆうかり編集委員会企画	花いっぱいになりました!! 三浦仁太・飯田珠莉・佐藤遼河 榎園琉斗・野田葵心		7
社会福祉学科イベント	ソーシャルワーク実習		
	障害児分野 ソーシャルワーク実習を終えて	前山聡宏	9
	高齢者分野 高齢者分野での実習を通して	高橋あい	10
	子ども分野 子ども分野実習を振り返って	有村玲香	10
	福祉事務所分野 福祉事務所での実習を通して	良山大知	10
	社会福祉協議会分野 2021年度社会福祉協議会実習について	高橋信行	11
	医療分野 医療機関での実習を終えて	鈴木朋哉	12
	精神保健福祉援助実習	林岳宏・茶屋道拓哉	13
	介護実習	岩崎房子	15
	教育実習	古賀政文	17
	新入生ゼミナールのイベント紹介!	松元泰英	21
演習論文報告会コメント	「演習論文報告会」の報告	岩崎房子	23
自主研究助成による研究報告	社会福祉学会における自主研究助成について	林岳宏	24
	鹿児島県における精神保健福祉士を対象とした災害対策研修のモデル構築の試み 福永康孝・溝内義剛 林岳宏・茶屋道拓哉		26
学生を外にー	学生を外(フィールド)に連れ出すー「旅する福祉」の真骨頂	高橋信行	28
	2021年度演習論文テーマ		32
	鹿児島国際大学社会福祉学会会則		36
	2020年度鹿児島国際大学社会福祉学会・収支決算報告		38
	ゆうかり編集室便り		39
	編集後記		40



『ゆうかり』第21号に寄せて

福祉社会学部教授 大山 朝子

第21号の『ゆうかり』をここにお届けすることができました。最初に手に取られるのは卒業生の方々になることと思います。まずはご卒業おめでとうございます。

本誌は、社会福祉学科でこの一年間に行われた実習、研究および企画等について、広く発表する場となっています。今年度の大学生活も昨年度からの新型コロナの感染拡大の影響を受けましたが、昨年度の経験をふまえ、各行事が開催されるようになり、例年の内容に近い形で編集に戻りつつあります。

まず昨年度の卒業式、それに続く今年度の入学式は出席者を卒業生、新入生のみ限定し、無事開催されました。授業においては、引き続き学内におけるマスクの着用や換気の徹底等がなされましたが、前期から夏季休業中において行われた学内・学外における活動の自粛、対面授業に代替するオンライン授業等は後期に感染者数が減少したことに伴い活動緩和がなされ、大学祭も教職員・在学生のみの参加で2年ぶりに開催されました。

また、昨年度すべての学生が急遽施設実習から学内での実習へと変更されたソーシャルワーク実習・精神保健福祉士実習・介護福祉士実習は、オリンピック・パラリンピックが開催されたこの夏、施設実習および学内実習で実施されました。とくに施設で実習を行うことができた皆さんは、新型コロナの流行下における施設での実習を体験し、福祉現場が抱える課題について考える貴重な機会になったことと思います。昨年度よりも感染状況が厳しい中(第5波)において、これまでの経験をふまえた取り組みとなりましたが、感染者を1名も出すことなく、関係機関等からの協力の下で全員が無事にいずれかの形で実習を終了することができました。

今回の感染症の流行は医療現場のみならず広く社会に影響を及ぼし続けていますが、制限された中で出来得ることを模索しながら様々な取り組みが続けられています。本学科におきましても、一日大学生体験に替わり昨年度オンラインでミニオープンキャンパスを実施しましたが、今年度はオンラインと出前型での開催とし、高校単位で申し込んでいただくことで、より多くの高校生に参加していただけるように工夫がなされました。

今年度コロナ禍の下で学生生活を送ることになった皆さんにとっては、これまで当たり前だったことができない状況で様々な戸惑いや多くの困難があったことと思います。新たな変異ウィルスの発生が危惧されていますが、ワクチン接種の推進等により、感染状況も落ち着きつつあり、一部の活動については今までの経験をふまえ工夫し行ったものもあったことと思います。

この一年、多くの方々の支えがあったことに感謝しつつ、これらを改めて福祉を学ぶことの意味を深める良い機会に転換して欲しいと思います。そして、この『ゆうかり』を読むことにより、自分自身がこの一年間に感じたこと、考えたことなどを振り返り、今後に活かしていただけると嬉しいです。

最後になりましたが、第21号の編集に尽力していただいた上田先生、山下先生や学生編集委員の学生の皆さん、執筆者の方々に深く感謝いたします。

2021 年度 社会福祉学科 Mini オープンキャンパス (出前・オンライン開催) について

大山 朝子

昨年度は対面での一日大学生体験が行えないなか、オンラインでのミニオープンキャンパスの開催を初めて試みました。参加者は例年の対面でのイベントと比較するとだいぶ少なくなりましたが、実施した結果、オンライン開催における課題（例えば高校生にとってアプリ操作が難しい等）やオンラインによる進学相談の要望（減免制度等について具体的な質問等）があることを把握することができました。さらに、昨年参加してくださった高校生の方々のなかに今年度推薦入試で受験していただいた方々が出てこれ、少しずつですが手ごたえも感じています。

以上をふまえ、感染症の流行が継続している今年度も例年実施している一日大学生体験を出前・オンラインにより開催することとし、また学生さん個人ではなく高校単位で申し込んでいただく Mini オープンキャンパスへ変更いたしました。

内容としては模擬授業と進学相談の2部構成としました。模擬授業については、委員の先生方をお願いすることとしました。内容としては、「生きづらさを抱える人に寄り添うソーシャルワーカーの可能性・フィールド・キャリア」（茶屋道拓哉先生）、「心理学について知ろう」（永富大輔先生）、私たちの生活と社会保障（山下利恵子先生）「社会福祉とは何か？ーライフサイクルと生活問題ー」（大山）の4テーマを準備し、その後の進学相談では、大学全体の様子を紹介し、その後に国家資格の合格率、就職先、授業料の減免等の質問に対し、各先生方から説明を行うという内容にしました。

申込期間は11月から2月末日までとし、より多くの高校生に参加していただけるよう、来年2月まで引き続き案内を行う予定です。

来年度は社会環境がどのような状況になっているかまだわかりませんが、高校生の皆さんに本学科の魅力をどのようにして発信していけばよいか、今年度に向け引き続き様々な角度から検討していくこととなると思います。

最後になりましたが、今回の Mini オープンキャンパスの開催にあたり、広報の面でご協力いただいた入試・広報課の方々および担当していただいた学科の先生方（案内ポスター等の作成等）に深く感謝申し上げます。

学びに、 熱を。

社会福祉学科

Mini オープンキャンパス
出前・オンライン 開催

コロナ禍でも動き続ける福祉。



スケジュールの例 1コマ分で実施する場合

大学・学科紹介

10分

模擬授業

30分

進学相談

10分

<開催日> 11月1(月)~2月28日(月)における希望日
<お申込み方法> 裏面の申込書からお申込みください。



知を学び、地に活かす。

鹿児島国際大学

鹿児島国際大学 社会福祉学科 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1

TEL 099-261-3211(代表) <https://www.iuk.ac.jp>

Mail shafuku@ofc.iuk.ac.jp



20 余年の教員生活を振り返って



田中 安平

私が鹿児島国際大学に就任したのは2001年4月で、本学が鹿児島経済大学から鹿児島国際大学に改称した翌年のことである。それまで社会福祉学科にあった①福祉・計画コース、②心理・教育コース、③医療福祉コースに4番目の介護福祉コースを新設するため厚生省に赴き、翌2002年に第1期生を迎えたことが昨日のこのように、鮮やかに思い出される。

当時の社会福祉学科は、定員150人に対し170人程度の入学者があり、活気づいていた。2005年の介護福祉コースの完成年度を迎えるまでは、新生ゼミを25人程度受け持っており、講義開始の第1回目から2回目までは、毎年自分紹介をしてもらっていた。振り返りシートでは、例年以下のような内容があった。

- ・人前で話すことに苦手な私は、「嫌だな」と思っていたが、話してみると案外落ち着いて話せた気がする。
- ・発表後に質問タイムがあったが、あまり質問がないのは「自分のことに興味がないのか。話の内容が詰まらなかったのか」と少しがっかりした。なので、ほかの発表者の時は積極的に質問していきたい。
- ・「路面電車で驚いた」という県外からの〇〇さんの発言に、毎日見慣れていた私は驚いた。当たり前の感覚も身近なところで差異があるのを気付いた。
- ・〇〇君は、本学が第1志望ではなかったと話していたが、早くみんなと馴染んで、楽しい学園生活を送ってほしい。機会があったら、友達になりたい。
- ・自分以外にも不本意入学者が数名いた。それぞれ事情があるようだ。私は、せっかく入学したのだから、楽しく充実した学園生活を送りたいと思う。

当時の担当学生（新生ゼミ）のうち、1～2名は不本意入学者が毎年のようにいたが、「鶏口となるも牛後となるなかれ」の譬えにあるように、自分紹介やゼミ等を重ねるうちに第1志望校に入学できなかったというネガティブな思考を社会福祉学科に入学したというポジティブ思考に切り替え、自らの方向性・人生設計を着実に描き直し、社会福祉士の資格を取り、福祉現場で精力的に勤務している卒業生から連絡をもらうことがある。

3・4年の演習では1学年20～30名のゼミ生を受け持ったり、大学院も含めると年間18～22コマの持ちコマがあったりで当時の学生にはただただ慌ただしく、じっくり向き合うことができず申し訳なく感じているが、年に2～3回の学生主催によるゼミコンパやレ

クリエイション等をとおして、結びつきを築くことができていたのではないかと感じている。それが7名のゼミ生の結婚式の招待につながっているのではないかと感謝している。

また2017年には、介護福祉コースの第1期生が音頭を取り、12期までの卒業生や13期の4年生が110余名集い、定年退職の祝賀を開いてくれた。これは望外の喜びであり、教師冥利に尽きる。52歳で鹿児島国際大学に就任して20余年が過ぎ、当時のようなエネルギーを発揮することが困難になったいま、来し方を振り返るとき、多くの先輩教員や同僚の皆さん、そして学生の皆さんに感謝の念でいっぱいである。

<在学生の皆さんへ>

人生はブーメラン。投げ方により軌跡（変化）は様々だが、最後は自分のところに戻ってくる。しかし、投げ方や力加減が適切でなければ、戻ってくることは叶わない。自らの意思で選んだ選択肢(出来事)に関しては、どのような結果になろうと自ら引き受ける責任がある。大学生活という大なる自由の中で、自らを鍛えてほしい。チャンスは平等に訪れる。しかし、その時掴み取る状況が己に整っていなければ、目の前を通り過ぎるだけである。



花いっぱいになりました!!

三浦 仁太・飯田 珠莉・佐藤 遼河
榎園 琉斗・野田 葵心

こんにちは、ゆうかり委員会です。今年はコロナ禍で活動できることが限られていましたが、どうにか去年と同じ5号館の花壇の手入れをしました。

11月2日・11月9日

最初は草むしりをしました。少し面倒くさい作業でしたが、雑草はそのままにしておくと土の養分や水分を奪い、また育てている花に十分な日光が当たらなくなったり、花壇の見栄えが悪くなったりするので、重要な作業です。これは調べて知ったのですが、これらの理由に加えて雑草は病原菌の温床にもなるそうです。



12月7日

図書館の裏でつくっている腐葉土を花壇に入れました。腐葉土には土をより良い状態へ改善していく効果があります。また腐葉土は通気性、保肥性、保水性がありますが栄養分はないようです。しかし腐葉土には有機物を分解する微生物がとて多く、土に混ぜることで土の微生物が増加し土壌が改善されていきます。



12月14日

花の苗を植えました。肥料を加えながら植え、花壇を作成することができました。自分たちの活動が形になっていくことが実感でき、これからこの苗たちが花を咲かせていくのが楽しみです。



スイートアリッサム



プリムラ・ジュリアン

お花とてもきれいだね！
でもポポラスはお花もだけど
クッキーも好きだなあ...



ソーシャルワーク実習 一学生の感想と教員のコメント

社会福祉学科では、社会福祉士国家資格の受験資格取得のために、3年生のときにソーシャルワーク実習を行います。今年度の実習について、分野ごとに、学生の皆さんからの感想や担当教員のコメントをいただきました。

障害児者分野
前山聡宏先生担当

ソーシャルワーク実習を終えて
前山 聡宏

今年度のソーシャルワーク実習は、コロナ禍の大変な状況でしたが、実習施設の協力で無事に実施することができました。実習では利用者が一生懸命に日々を過ごしている姿を目にし、また福祉に携わる専門職の利用者へ接する態度や実践する上での姿勢などをみて、「これが福祉の基本なのかな」と感じる事ができたことで、利用者理解や実践についてより身近に感じられる貴重な体験であったと思います。

巡回指導はオンラインとなりましたが、時間や回を重ねるごとに学生の不安や緊張した表情も実習先の雰囲気や実践をみたことで徐々に笑顔になるのがPC画面上にも伝わってきました。ある学生からは、就労継続支援事業所に来られる利用者が緊張していた学生に対して気さくに話しかけてくれて、対話が楽しくなり時間があっという間に過ぎていった、というような話がありました。また、別の学生より、コロナ禍でなかなか家族と会えなかったり、外出ができない状況であっても施設職員の工夫で、施設内で季節を感じる催しをしたり雰囲気作りなどされておりとても居心地がよかった、など実習の中で利用者一人ひとりに合わせた支援を丁寧に取り組まれていることに感心していました。

また、利用者のために専門職同士が協力し合って支援している状況を実習でみれたことは、チームケアの考えが定着していることは理解できていても、実際に体験できたことで、わかっているけど当然だと思っていたことが、いつの間にか頭から抜け落ちていたことを思い出す機会にもなったように感じます。さらに、職種間の線引きが明確ではなく重なっているように見える部分もありますが、それは無理にどちらかの職種に分担するというものではなく、重なっているからこそ大事であるし多職種で重なっている部分をそれぞれの専門性をもってアセスメントすることで、その時々での最善の支援が可能になることの柔軟さや「利用者が中心」というあたり前のことをあらためて深く理解ができたと思います。

実習前の学生は、利用者とのコミュニケーションなど利用者だけを着目しがちでしたが、実習先でみた連携の場面や事例研究等の一連の過程を踏んだことで、利用者を取り巻く家族や関係者、地域にも目を向けることができていると感じる場面が多かったです。私はソーシャルワークの実践は計画通りに行かないことが多い分、かかわる関係機関や職種が相互に連携を図っていくことで、化学反応が生まれ支援が好転する場面を何度もみてきました。好転するには理由はありますが、それもソーシャルワークの面白さかなと感じています。

実習終了後に、ある実習指導者より「実習生がいなくなってから『さみしくなったな〜、何かポッカリ空いたような?』という話を利用者や職員がしていましたよ」という内容を伺いました。実習生の存在が利用者や職員にとって“いつもの生活の中”へ確実に入っていたからこそ出た言葉なのかな、短期間でもいるのがあたり前のように安心感をもたらすことが

できていたのだと感じました。そして、学生より実習を通してのお土産話を聞いてよい体験や悩んでくじけそうになった出来事など本当に濃い実習をしたことで、今後の学生の成長が楽しみです。

高齢者分野
石踊紳一郎先生担当

高齢者分野での実習を通して
3年3組7番 高橋 あい

今回は、高齢者分野の特別養護老人ホームふれあいの街ねむの里で実習をさせていただきました。県内で新型コロナウイルス感染拡大に伴う蔓延防止等重点措置が発出される中、実習生受け入れをして下さった施設の皆様には心から感謝申し上げます。施設実習として特別養護老人ホームをはじめとし、系列グループ6施設、職種実習として特別養護老人ホームの管理栄養士、作業療法士、看護師、介護福祉士、生活相談員、施設介護支援相談員にそれぞれ1～3日間同行させていただきました。多くのグループ内実習、職業実習によって、様々な方向からの支援や、多職種連携の在りかたを学ぶことができました。また実践・講話を通して、対象者との円滑なコミュニケーション、ニーズや困りごとの把握、家族との関わり、多職種・他機関との連携の在り方、社会資源の活用方法、SWの専門性についても学びを深めることが出来ました。この実習で学んだことを活かしながら今後さらに視野を広げて、現場で求められている理想のSW像を確立し、少しでも近づけるよう努力したいと思います。

こども分野
有村玲香先生担当

子ども分野実習を振り返って
有村 玲香

今年度は、3名の学生が児童養護施設での実習に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の流行に大きく影響を受けながらも、今年の実習は、実習開始2週間前から、「行動制限」や「健康観察」を実施し、ご指導を頂いた施設のおかげもあり、なんとか現場実習に取り組みました。3名の学生は、2年の後期より子ども領域での実習に挑むために準備を始めました。そして、日々の体調管理も例年以上に力を注ぎながら、各実習課題と目標を掲げて180時間の実習を無事に終えることができました。この実習を通して、子どもの生活を支援するソーシャルワーカーの姿や、児童養護施設の機能、地域支援について実践的に学びました。また、事例研究を通してソーシャルワークの展開を実践的に取り組み、現在の学生自身の「知識」「技術」「価値」を確認して、臨床に必要なソーシャルワークの専門性を捉えることができました。さらに実習終了後は、各自で実習報告書を作成するなかで、体験を言語化しながら整理することで、実習での学びを振り返りながら自信をつけていました。最後に今後も、この実習での学びを活かして努力を続けて欲しいです。

福祉事務所分野
大山朝子先生担当

福祉事務所での実習を通して
3年2組12番 良山 大知

私は奄美市福祉事務所で実習をさせていただいた。なかでも印象に残っているのは、保護課における実習である。保護課では、第3のセーフティネットとして位置づけられている生活保護法による支援とともに第2のセーフティネットである生活困窮者自立支援制度による

支援も行われている。生活保護業務については、家庭訪問に同行させていただき、保護の実態について学ぶことができた。なかでも生活保護受給者の半数近くが高齢者世帯であるための自立に向けてプランを作成していくことの難しさを感じた。なお、保護受給世帯としては、高齢者の方々の占める割合が高いが、知的障害、精神疾患を患っている方も少なくない。なかでも軽度の知的障害を持っている方に対しては、就労支援事業所におけるサービスの提供が他の課と連携して行われており、自立に向けた支援の様子を見せていただくことができた。生活困窮者自立支援制度による支援業務については、支援を行う際にクライアントと支援員が一緒に支援プランの作成を行い、クライアントを主体とした意思決定や自立に対するサポートがなされていた。その結果、クライアントは自分が置かれている状況を認識することができ、自立に向けて前向きに考えることができると感じた。

今回の実習を通し、保護課以外にも福祉政策課、高齢者福祉課等、奄美市における福祉行政の現場を体験させていただいたが、福祉事務所での実習内容はソーシャルワークの「ミクロ・マクロ・メゾ」領域の視点が盛り込まれていたため、大変有意義な実習となった。実習指導者をはじめ、お世話になったすべての方々や利用者に感謝したい。

社会福祉協議会分野
高橋信行先生担当

2021年度社会福祉協議会実習について

高橋 信行

2020年度のソーシャルワーク実習は、最終的に現場での実習をすることができなかったが、2021年は、コロナ禍のなか、さまざまな問題を抱えながら、なんとか実習を終えることができた。夏季休暇中の、最もコロナが猛威を振っていた時期であったが、関係者のご支援と学生の努力の結果、滞りなく進めることができた。もちろん、実習プログラム上の制約があり、三密をとまなう活動は中止となり、実習プログラムも変更になったりした。

指導する側も、実習先訪問をできるだけ少なくし、Zoomを使ったオンラインを多くせざるを得なかった。オンラインを使った指導の仕方は工夫が必要であるが、使い方によっては効果的な教育が行えるという気持ちにもなった。

すでに実習を終えた学生は、演習や実習の事後教育を受けているところであるが、あらためて社協のプログラムの豊富さに驚く。学生から「一日として同じ事をしなかった」という感想を聞いたが、他の実習と異なる点であろう。180時間の中でのソーシャルワーク実習では、じっくりと利用者向き合いながら、継続して支援に関わるようなプログラムも経験させたいものだとも思った。

またメゾ、マクロ領域の実習が含まれるのも、社協の特徴と言えるが、他分野の学生の報告を聞いていると、ほとんど地域との関わりに言及しておらず、こうした点は、多分野の実習プログラムでも考慮すべき点であるように思う。加えて、その法人の成り立ちや、理念、経営としての側面についても勉強すべきだろう。

ともあれ、不慣れな学生を辛抱強く、見守りご指導いただいた社会福祉協議会スタッフの皆様々に感謝するとともに、よく頑張った学生にねぎらいのことばをかけたいと思う。実習報告書の中には、自分自身の成長を実感する学生の言葉も多く見られた。

来年度が旧カリキュラムとしての最後の実習となり、再来年度からは、実習時間を増やしたあらたな実習がはじまる。それに向けて、現場との調整や連携がこれまで以上に必要になることをひしひしと感じている。

私は、「医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル」で23日間実習をさせて頂きました。医療機関の中で援助を行なっている医療ソーシャルワーカーがどのような支援を行なっているかを学ばせて頂くことができました。患者様からニーズを聞き支援の内容を考え、時には患者様が不安に感じていることに対して寄り添っていました。実際に入院手続きやカンファレンスなどに同席することもできました。患者様やご家族の方に合わせて対応の仕方を臨機応変に変えていました。カンファレンスでは、MSWが場を仕切り多専門職と情報の共有を行うなど多職種連携を見させて頂きました。また、病院内だけではなく、訪問リハビリ（デイケア）、居宅介護支援事業所、看護小規模多機能型居宅介護にて実習をさせて頂き、利用者様とコミュニケーションをとることができました。送迎や訪問介護、担当者会議にも同行させて頂き、MSWとは異なる他専門職の視点での学びもありました。

事例研究では実際に一人の患者様と向き合い支援計画を立てることができました。患者様が入院されている期間の中で、病院内唯一の福祉の専門職であるMSWとしてできることを最後まで考えました。どのような制度・社会資源を活用すれば患者様のニーズに応えることができるのか患者様とコミュニケーションをとりながら考えました。事例研究の中で相談援助の難しさや傾聴などの重要性を学ぶことができました。

23日間の実習は貴重な時間となり、社会福祉士は患者様が退院する過程の中で中心的な役割を担い、多くの専門職と連携を図っているということが分かりました。

実習の開始直前に県内の新型コロナウイルスの陽性者が急激に増加した中で、最後まで病院内で実習ができました。実習を受け入れて下さったキラメキテラスヘルスケアホスピタルの院長先生をはじめ、関係者の皆様、ご指導下さったMSWの皆様、事例研究で関わらせて頂いた患者様には心より感謝申し上げます。また、実習の開始前から終了までご尽力下さった実習担当の先生方、実習支援課の方々には感謝しかありません。社会福祉士国家試験に向けて実習で学ばせて頂いたことを基に勉強に励んでいきたいと思います。



精神保健福祉援助実習

林 岳宏・茶屋道 拓哉

本課程では、精神保健福祉援助実習とその関連科目である精神保健福祉援助実習指導Ⅰ～Ⅲ、精神保健福祉援助演習を連動させて、より深い気付きと学びが得られるような工夫を行っています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で一部学内代替実習となりましたが、コロナ禍前に近い形で現場での実習を行うことができました。ここでは、例年の実習計画に加え、令和3年度の実習についてご紹介させていただきます。



例年の年間スケジュールとしては、前期に精神保健福祉援助実習指導Ⅰで事前見学実習を行います。鹿児島市保健所ではスポーツ交流会などに参加します。また、鹿児島市精神保健福祉交流センター（通称は一とぱーく）、鹿児島県精神保健福祉センターでは講義を、県立始良病院、谷山病院、および松下病院では見学を、地域活動支援センターひだまりでは当事者との交流を行い、学びを深めていきます。実習指導Ⅱでは事前指導と事前協議会を実施して、実習指導者との協力関係を築いています。令和3年度は、スポーツ交流会が後期に変更となるなどしましたが、何とか当事者の方と交流する機会を持つことができました。事前協議会は、Web会議システム（Zoom）を用いて開催しました。

例年は、夏季休業中に障害福祉サービス事業所8日間(64時間)と病院20日間(160時間)、合計28日間(224時間)の実習を行います。令和3年度は、一部は学内代替実習となりましたが、こちらも何とか現場での実習を行うことができました。事業所は、一部を除き、1事業所に対し1名の学生の配置としました。病院は全て1名ずつの学生の配置としました。学生にとっては、複数の学生で実習できたほうが心強いとは思いますが、しかし、より安全に実習を行うために、感染対策としてこのような配置としました。また、巡回指導は基本的にZoomを用いて行いました。これも感染対策の一貫ですが、遠隔で行うことにより、一日に複数の実習場所の巡回指導を行うことが可能になりました。そうすることで、実習の流れに合わせて巡回指導の日程を組むことが出来ました。例年ですと、学生同士が議論する機会は帰校日などになります。当初は、実際に集まる予定でしたが、こちらも感染対策のためにZoomで帰学指導を行いました。さらに、一部の実習は悪天候のために中止となり、後日学内代替実習を行いました。このように、コロナ禍前の実習と比べると、学生にとってきつい場面もあった実習になったかと思います。しかし、今年度の学生は、昨年のソーシャルワー

ク実習が学内代替実習であったため、現場での実習が未経験なまま本課程の実習にのぞみました。そのため、「現場で実習できる喜び」が大きく、それが実習に伴うきつさを上回っていたように感じられました。

後期に入ると、実習指導Ⅲの中で実習に関する学びを総括し、実習報告書を作成していきます。例年、そのプロセスの中で、経験的な学びを理論的な学びに深めていきます。令和3年度は、学生の配置の問題だけでなく、コロナ禍での実習ということもあり、学生の経験的な学びは非常に多岐にわたっていました。そこで、学生個人の経験を課程学生全員で共有しながら、議論を交わしながら実習報告書を作成していくこととしました。これを達成することができた背景には、環境面で大きな変化があったことがあります。後期から、5号館3階に「精神保健福祉実習室」が完成し、そこで実習報告書の作成作業をはじめ、精神保健福祉士課程に関連する講義・演習・実習指導を行うことができるようになりました。実習室は、学科教員の皆様をはじめ、大学関係者の皆様のご理解とご協力があって、完成に至りました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。実習室内には、過去の実習報告書の保管場所も用意できました。実習報告書作成にあたり、学生たちは集中して心置きなく充実した議論を交わすことができたと思います。

実習の発表の場である実習報告会は、例年どおり対面で行うことができました。今年度より、学生の発表ごとに、その学生の実習指導者の方にコメントをいただくこととしました。実習指導者の方々からは、学生へ丁寧に貴重なフィードバックがなされました。学生は、そのフィードバックから、大きな自信と安心感をもらうことが出来たと思います。

学生は実習を通して、精神科病院や障害福祉サービス事業所の現状を学びます。さらに、当事者とその家族の方々の想いや葛藤、人間的理解を深め、自己覚知していきます。そして、当事者の生活する環境としての精神科病院や事業所の在り方に気づいていきます。学生は実習前にそれぞれテーマを設定します。実習後にそれを振り返りながら、「自分にとって精神保健福祉士とは」「どんなソーシャルワーカーになりたいか」を考えていきます。私達教員は、学生同士が議論していくことで、学生自身がそれを見出すように支援します。

また、学生は、精神保健福祉士が当事者とその家族へどのように関わっているかも学びます。そして、他職種のスタッフが、精神保健福祉士に対してどのような理解をしているのかを学んでいきます。当事者とその家族、さらに彼らを支援している援助スタッフとの相互作用を見出すことが、学生の課題となります。最終的には、学生自身の生き方について洞察し、自己覚知を図ることになります。

令和3年度の学内代替実習では、コロナ禍での実習でありながら、学生自身の洞察や自己覚知は十分図れたものと考えています。コロナ禍の状況にもかかわらず、多くの精神科病院、障害福祉サービス事業所、保健所や精神保健福祉センターに実習を受け入れていただきました。臨床での実践的な学びを通じて、学生も精神保健福祉士としてのスタートラインに立つ準備が整ったように感じています。ご指導いただきました、実習指導者の方々へ心より感謝申し上げます。次年度も、感染状況により実習の方法などに様々な制限が加わることが予想されますが、学生と実習指導者の方々とともに、より実りある実習の実践を目指していきたいと思っております。

介護実習

岩崎 房子

介護福祉士国家試験受験資格を取得するためには、3回の介護実習を履修する必要があります。介護実習Ⅰは1年生（10日間：80時間）、介護実習Ⅱは2年生（22日間：170時間）、介護実習Ⅲは4年生（25日間：200時間）です。この紙面では、夏季休業中に実施された介護実習Ⅱと介護実習Ⅲについて報告したいと思います。

夏季休業期間中に行われた介護実習Ⅱ・Ⅲは、当初は施設実習を実施する方向でしたが、実習直前に新型コロナウイルス感染拡大警戒レベルがⅡからⅢへアップしたことから、実習受け入れができなくなった施設もあり、実習開始時点では、施設実習と学内実習の同時進行でのスタートとなりました。その後、警戒レベルがステージⅢからⅣへアップした時点と県内感染者数が200名を超えた時点で施設実習の継続について協議し、段階的に学内実習へと移行しました。以下に介護実習Ⅱ・Ⅲの主な内容を紹介します。

	2年生		4年生	
1 週 目	施設実習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者支援施設 ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム 	施設実習	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護事業所
	学内実習 (施設見学)	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス ・有料老人ホーム 	学内実習 (講義・VTR)	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護員の業務と役割 ・サービス担当者会議 ・地域包括ケアシステムと訪問介護員 ・介護保険 ・訪問介護事業所運営・管理 ・感染予防対策
2 週 目	施設実習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者支援施設 ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム 	施設実習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者支援施設 ・老人保健施設 ・特別養護老人ホーム
	学内実習 (介護技術)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術 ・事例検討会（2事例） 	学内実習 (介護技術)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術 ・事例検討会（2事例）
3 週 目	学内実習 (演習・グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程展開 (2事例：1項目展開) 	学内実習 (演習・グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程展開（2事例：全項目展開）
4 週 目	学内実習 (講義・グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の介護 ・介護保険制度 ・感染予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・介護と医療の連携 ・対人援助における個人情報保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り・ターミナルケア ・地域における生活支援 ・学生フリートーク
5 週 目	学内実習 (講義・グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・チームマネジメント ・記録の書き方 ・感染防護具の作成 	学内実習 (講義・グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・チームマネジメント ・在宅介護と医療の連携 ・記録の書き方 ・多職種連携とチームケア ・感染防護具の作成 ・施設運営・管理 ・地域拠点としての施設、事業所の役割

今回は、5～10日間の施設実習の後、学内実習に切り替えましたが、受講した2年生、4年生からは、「施設実習が学内に変更になったことは残念だったが、施設実習と学内実習の二つを同時に経験できたことは貴重だった」「施設実習・学内実習それぞれのメリットを経験することができ、両方を同時期に経験できたからこそ学べたことも数多くあった」という声や、「先輩（後輩）と意見交換や交流する機会が持ててよかった。とても刺激になった」という声が聞かれました。対人援助職にとって現場での実習は重要です。来年度こそは、新型コロナウイルスが収束し、学内だけでは学べない多くのことを利用者様や職員の方々から学んでほしいと思います。

この時期だからこそできる経験がある…
いつかある実習のために
ポポラスも今できることを精一杯頑張るぞ！



教育実習

古賀 政文

教職課程は、特別支援学校教諭、高等学校教諭（福祉、公民）、中学校教諭（社会）の教育職員養成を目的とする課程です。本学では、それぞれの免許状取得のため、主に5月から6月に掛けて中学校・高等学校での教育実習を、9月から10月に掛けて特別支援学校での教育実習を行います。

しかし、今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、実習期間の短縮や時期の変更、大学、受入学校側の体制等、大きな変更がありました。また、分散登校が実施され、児童生徒と直接的に関わることが制限された学校もありました。

それでも、学生の皆さんは教育実習を無事終えることができました。

今年度教育実習を行った学生の感想を紹介します。（教育実習報告会の資料から）

中学校・高等学校

アドバイス等

- ・ まずは体調第一。健康管理に気を付け、コミュニケーションを楽しんでほしい。
- ・ いろいろな形式の指導案を準備しておくといい。
- ・ 自分の担当する教科に関する「知識」は最低限身に付けておいてほしい。
- ・ 睡眠を十分に、分からないことは遠慮なくすぐ先生に聞く。
- ・ 先生方の業務に、自分にもできることはありませんかと積極的に動いてほしい。
- ・ 毎日持っていくものとそうでないものを開始二日目ぐらいで整理できるといい。
- ・ 分からないことを分からないままにせず、常に積極的な姿勢で臨んでほしい。
- ・ 生徒は思った以上によく実習生を見ている。くれぐれも公平に接してほしい。
- ・ タブレット（デジタル教科書）の扱いには、十分慣れておいた方がいい。
- ・ 実習先ではカラー印刷はできない。大学内の図書館やカフェテリア室の利用を。
- ・ 実習中の土日の使い方は大事。ゆっくり休む+じっくり教材準備。
- ・ 事前に、実習先が使用する教科書、単元、授業数を早くうかがっておくとよい。
- ・ やりがいもある、生徒たちはいい子。半端な気持ちで実習に行かないように。
- ・ 毎日スーツ。あらかじめ2～3枚のシャツは買っておかないといけません。
- ・ 授業範囲が分かれば、実習開始前に計画的に授業準備を進めておいた方がよい。
- ・ 実習中は礼儀・マナーに気を付け、特にあいさつに関しては、はきはきと。
- ・ 定時で帰れるものかと思っていたが、授業準備でなかなか帰れる日はない。
- ・ やる気と学ぶ姿勢をもち、様々なことに積極的に取り組んでほしい。
- ・ 実習中のかねての生活がだらしないと、実習中は窮屈を感じる場面が出てくる。
- ・ 余裕が出てきたら、実習以外の「今後のこと」も相談してみるといい。

- ・ 実習生が初めから全てうまくできると、学校側は思っていない。
- ・ 最低限の文房具一式はあるといい（ホッチキス、スタンプ、バインダーなど）
- ・ 研究授業に向けて練習の際、動画を撮り客観的に見ることで改善点が見える。
- ・ 私用のパソコンは必需品。USBを使ったデータコピーを知っておいた方がいい。
- ・ 日頃から各教科等の教育法をとおして授業準備に慣れておくとさらに充実する。
- ・ たくさんの生徒とコミュニケーションが図れ、終わってみればあつという間。
- ・ 素直が一番。素直であれば、先生方も細かいサポートをしてくれる。
- ・ 完璧を求めるのではなく、気負いすぎず自分の力を精一杯出し切って。

特別支援学校

成 果

- ・ 授業の中で生徒全員に言葉かけをし、生徒が全員授業に参加できる雰囲気づくりに努めることができた。
- ・ 児童生徒一人一人の実態に合わせた授業とはどのようなものなのか最初は分からなかったが、生徒と接する中で徐々に理解できた。例えば文字を書くのが難しく、言葉もあまり話せない生徒にどう支援するかを考えたときに、教師が生徒と一緒に考えた文章をなぞってもらったり、生徒の出すサインを見逃さないようにしてコミュニケーションを取ったり、写真やイラストを用意して指をさしてもらったら良いのではないかと自分の中で少しずつ分かってきた部分もあった。実際にこれらの支援でかなり生徒と関わる事ができた。
- ・ 特別支援学校の実際を知ることができたことだ。大学の授業や学校見学で得ていた情報や知識だけではなく、2週間、特別支援学校の生徒と関わり、授業を行う中で、特別支援学校の雰囲気をつかめたことが大きな収穫であると感じる。
- ・ 授業をするにあたって児童生徒一人一人の実態に合わせた取り組みが必要である。だから、児童生徒とコミュニケーションをとる際、この子は何が得意で苦手なのかといった特徴をつかめられるようにすることが必要だ。
- ・ 昼休みに一人でいる生徒に声掛けを行ったり、教師が言っても日記を書かなかった生徒が日記を書いてくれたりしたことがよかった。特別支援学校での授業の行い方を学ぶことができ、多くの生徒との関わりによって生徒の個性や良いところに気付くことができた。
- ・ 特別支援教育の良さに改めて気づくことができた。生徒一人ひとりの障害の程度が異なる中で、CT、ST間で連携して手立てを考えながら生徒が主体的になれる授業を展開できることが通常の学校とは異なる部分であると感じた。生徒一人ひとりに応じた教材を作成したり、生徒の実態を把握したりすることで中学校の教育実習以上にやりがいを感じられた。
- ・ 生徒の実態を把握して、指導案を作り、授業を行うことができた。
- ・ 実習指導の先生方と教材準備をする際に、いかに生徒がわかりやすい教材にできるか多くの技術を学ばせていただいた。
- ・ 特別支援教育において、生徒との関わり方や授業の作り方、指導・支援の手立てなどを学ぶことができた。生徒と同じ目線に立ち、行動を共にすることで、たくさんのこと

に気づき、積極的に動けた。

- ・ 生徒との関わり方や授業準備の大切さを学ぶことができた。実際に授業を行うことで実態把握の大切さや授業準備の不十分さを実感することができた・生徒が分かりやすく、復習がしやすいような教材を作ることができた。
- ・ 実習配当学級の生徒だけでなく、他のクラスの生徒とも朝の挨拶や休み時間を通してコミュニケーションをとることができた。

課 題

- ・ 教材・教具づくりの経験があまりできなかったのでこれから実践を通して学んでいきたいと思う。
- ・ 授業や休憩の際のアクシデントの対応が遅いこと。廊下を走っていった生徒を追いかけるのはできたが、そのまま引きずられていくこともあったので、想定と違う行動を生徒がしたときにどう対処するかをあらかじめ考えることが必要だと思った。
- ・ 生徒との距離の詰め方である。実習では、比較的生徒と近い距離で関わりをもっていたが、教員になるとそれに見合った関係づくりを心掛けていかなければならないと感じた。
- ・ 評価授業では、落ち行いて堂々と授業を行えたものの展開通りに授業が進まず時間が足りなかったため本番前に何回も練習することを心掛ける。
- ・ 生徒に何と声を掛けて話しかけたら良いかわからず、あまり話すことができなかった生徒もいたことが反省である。
- ・ 他の学部や学年の先生方を見て、生徒を褒める場面が多くあったので、できるようにしたい。授業の中で生徒と言葉のキャッチボールを多くできるようにしたい。同じクラスでもその中での実態差は多くあるので、その中での授業づくりをもっと上手くできるようにしたい。
- ・ 今後、障害児者の支援に携わるので、今後も知的障害児・発達障害児の支援の工夫等の理解を深めることが大切であると考えます。
- ・ 学習活動が早く終わった生徒への対応と活動ごとのメリハリをつけることが必要であった。
- ・ 柔軟に物事を考えられるように余裕の作れる教師になれるようにすること。
- ・ 授業をする中で、C TとS Tの連携について不十分な点があり、教師側が見通しを持っていない場面があった。
- ・ 教師間の連携・コミュニケーションが重要であると感じた。また、生徒の発達段階に合わせた教材・教具の準備をしっかり行うことが課題だと思う。
- ・ 授業中の活動が中途半端に終わってしまうと次の活動に移れないことが多かったので、時間配分を見直すか、生徒が切り替えられるような言葉かけをしていきたいと思った。
- ・ 指導案を書くときに、個人の実態と目標がなかなか書けなかったので、授業中の生徒の様子だけではなく、休み時間などのちょっとした時間の様子や発言をよく見て聞いておくことが必要だと思った。
- ・ 児童生徒の実態を踏まえながら、ペアの教師と協力・連携して臨機応変に対応していくこと。

アドバイス等

- ・ 2年生の皆さんは基礎知識を覚えることと、今の段階で自分の中の教師の姿を考えておくと良いと思う。3年生は来年に備えて指導案と模擬授業をできるだけこなしておいたほうが良いと思う。
- ・ 特別支援学校の教育実習は、空き時間がない。日誌の記入、教材研究、指導案作成など放課後にできるものもあるが、学校で終わらず家に持ち帰って行い、睡眠時間が削られる。そのため、無理しすぎないこと。健康第一であるということを忘れないように。
- ・ 生徒と積極的に関わる。
- ・ 指導案の様式をオリエンテーションで確認する。
- ・ 学校で印刷する際にUSBを使用できないことがあるので指導教諭に確認する。
- ・ 指導教諭と授業の打ち合わせをする。
- ・ 生徒の好きなことから話を広げていく。
- ・ 体調管理に気をつける。



新入生ゼミナールのイベント紹介！

新入生ゼミナール担当者 松元 泰英

新入生ゼミナールは今年も残念ながらコロナ禍の影響を受け、学習の中心の一つである施設訪問が見送られることになりました。そのため、その分の授業のコマを学年全体の一斉学習に置き換えて、様々なイベントを実施しました。そのイベントの一部をご紹介します。

各障害の理解とサポートの在り方

この学習内容は、全国障害者スポーツ大会（昨年度の鹿児島大会は延期）のボランティアへの参加のための事前研修として昨年度から実施されています。この内容は、福祉分野の基礎となるため、今年度も継続して実施されました。その内容としては、内部障害、精神障害、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害、肢体不自由になります。

施設説明会

コロナ禍の影響で、昨年度から施設訪問の学習が残念ながら見送られています。そこで、その学習の代替として、二か所の施設から関係者に来ていただき施設の説明を実施してもらいました。11月の初めに医療法人の参天会、12月の初めには社会福祉法人である敬和会の方に来ていただき、各法人の案内をしてもらいました。写真1が参天会の説明の様子になります。学生からは、「より高い福祉に対する専門性を身に付けたいと思った。」、「実際に見学に行けたら良かった。」などの感想が聞かれています。やはり、実際に施設見学ができるのもっと深い学びが得られるのではないかと思います。



写真1 施設説明会

スポーツ大会

昨年度もスポーツ大会は実施していますが、今年度はST（スチューデント・アシスタント）を中心に実施されました。ドッジボールは、昨年と同様ですが、今年の東京パラリンピックの種目であったボッチャを今年は取り入れています。テレビで見ることがありましたが、実際に行った学生はほとんどいなかったため、体験することでボッチャの難しさや奥の深さなどを感じることができ、多くの学生が楽しい時を過ごすことができたようです。その様子が写真2になります。最初、リーグ戦をボッチャで行い、その結果を参考に、ドッジボールでのトーナメント戦を行いました。この結果、見事6組が優勝を勝ち取っています。



写真2 スポーツ大会

オンラインゲーム

コロナ禍の影響を受け、昨年度に引き続き今年もオンラインゲームを実施しています。昨年度も盛り上がりましたが、今年度は、学生も遠隔授業に慣れてきたせいか、昨年度以上に楽しんでいたように思います(写真3)。内容は、昨年度に引き続き、①変化する写真クイズ、②穴あき写真クイズ、③「はあ」て言うゲーム、④先生の四択クイズになります。優勝は4組でした。来年度こそは、コロナ禍が終息し、もっと自由にフィールドワークができることを期待したいです。



ゲーム楽しそう!
ポッチャってすごいよね〜!
ポポラスもおにぎりボールの上に
乗っかってみたよ!
どうかな?



「演習論文報告会」の報告

演習論文委員 岩崎 房子

社会福祉学科では、4年生が取り組んだ演習論文の成果発表の場として「演習論文報告会」を開催しています。例年であれば12月上旬に口頭発表を行っていますが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度も昨年度に引き続き、ポスター形式での報告会となりました。開催期間は、12月3日（金）～11日（土）までの9日間、5号館1階学生ホールにて開催しました。今回は、日頃から関心のあることがらを福祉というフィルターを通して執筆した力作12本が掲示されました。報告者およびテーマ一覧は、以下のとおりです。

	報告者	テーマ	ゼミ
1	池田 健真	児童虐待とその後の支援について ー親子への支援と家族の再統合ー	佐野ゼミ
2	井上 諒	薬物を使用した者に対する更生保護の現状と課題に関する研究	茶屋道ゼミ
3	嶺崎 美紅	障害者に対する災害時の支援課題と対策に関する研究 ー先行研究の課題の整理と「聞蔵(きくぞう)Ⅱビジュアル(朝日新聞オンラインデータベース)」を活用した分析ー	
4	川畑 瀬莉	ハンセン病について	古賀ゼミ
5	松下 大樹	ひとり親家庭に対しての支援制度 ーその現状と課題ー	山下ゼミ
6	松野 ア莉	日本のコミュニティについて	大山ゼミ
7	上園 菜月	LGBTQ+と差別	岩崎ゼミ
8	大窪 佳奈子	高齢者向けレクリエーションの実践 ー手芸が及ぼす心身への効果に関する一考察ー	
9	佐々木 晶	バレエのトウシューズについて ートウシューズやタイツの色に関する一考察ー	
10	寺田 麻紘	望まない妊娠とその対策	
11	有園 菜央	猫と人の歴史について ー猫に侵略されていく人類とひたすらに可愛い猫ー	
12	藤元 紀代香	相撲と高齢者の関係	

学生ホールでの開催（ポスター掲示）ということで、休憩をしながら多くの学生が目を向けていました。今年度は、メッセージ用紙を用意し、報告者宛にコメントを書いてもらい、報告者にメッセージを返すという形式をとりました。メッセージの内容は、「すごいと思った」「視点が面白い」「新しい知識を得ることができた」「実践を通じた内容がとても参考になった」「私も来年がんばります」など、34枚のメッセージがありました。また、先生方からの論文に対するメッセージもありました。今回の報告者の約半数は、夏休みに実習を行いながら、演習論文に取り組みました。報告者以外の4年生の皆さんも、学生生活4年間の集大成の演習論文を書き上げたという自信をもち、社会人になっても何事にも探求心を持って取り組んで欲しいと思います。また、下級生は、演習論文のイメージがついたのではないかと思います。参考にして演習論文の執筆に取り組んで欲しいと思います。

社会福祉学会における自主研究助成について

林 岳宏

鹿児島国際大学社会福祉学会においては、「鹿児島国際大学社会福祉学科位・学生会員の自主的な学習・研究活動の活性化を図る」ことを目的に、自主研究助成を行っています。助成の対象は、「自主研究（ゼミを含む）や特色あるボラティア活動・実習活動報告等とする」とされており、1件あたり5万円を上限として総額15万円までの助成額となっています。例年、毎年5月から6月にかけて申請の受付を行っています。個人申請の場合は本人名で、共同申請の場合は研究代表者名で申請の手続きを行っていただきます。申請順に審査内容を審査し、採否については6月末に通知するスケジュールとなっています。研究成果発表は、研究成果報告書を学会運営委員会に提出していただき、本誌「ゆうかり」に掲載することとなっています。なお、本助成は、「博士論文・修士論文・演習論文」そのものへの助成ではありません。

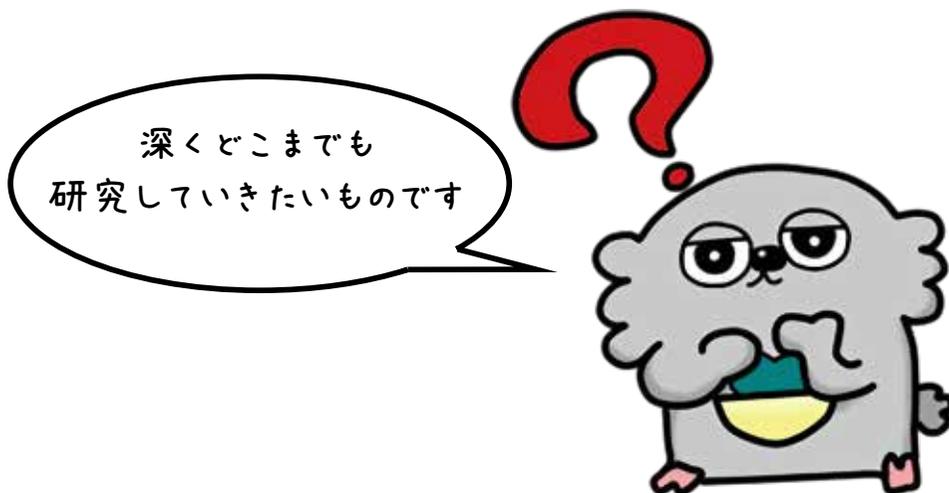
本年度は、助成に関する規定の改定を行いました。これまで、助成の支払対象は、①消耗品、②文献関係、③通信費、④印刷費、⑤交通費、⑥その他となっていました。交通費に関しては、「国内外の交通機関を対象（例：航空機・バス・JR・私鉄・タクシー船等）」となっていて、「レンタカー代、ならびに私用車によるガソリン代」は対象外となっていました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、交通機関による移動の機会が減り、レンタカーや私用車による移動の機会が増えることが想定されました。学内関係での他の助成では、車両燃料費を求めているものが存在します。そこで、支払対象として「レンタカー代、ならびに私用車による燃料費、駐車場代を追加する」ことを、本年度の総会でご提案させていただきました。総会で承認をいただきましたので、本年度の助成より支払対象が追加されています。私用車両を使用する際は、原則、教員引率のもとで使用することとなりました。保険の関係上、課外活動申請も必要となります。なお、あわせて支払対象にあった「タクシー船」は「タクシー・船」に変更されました。今回の改定により、より活発に研究活動が行われることが期待されます。

さて、本年度は、1件の申請があり助成対象として採用されました。助成採用時点での研究課題は「鹿児島県における精神保健福祉士を対象とした災害対策研修のモデル構築の試み」（代表：福永康孝氏〔福祉社会学研究科博士前期課程〕）です。採用後、本学の教育研究倫理審査を受ける課程で、研究課題名は「精神保健福祉士を対象とした災害対策研修のモデル構築の試み」に変更されました。審査と研究スケジュールの都合上、本原稿執筆時点で報告会は開催されていません（令和4年1月29日開催予定）。研究が完遂されていませんので、本誌「ゆうかり」では研究紹介・中間報告を行っていただきます、

この場をお借りして、本助成に関する私見を述べさせていただきます。もともと、博士論文・修士論文・演習論文が対象外となっていることから、現状では学生の皆さんにとってチャレンジしにくく感じる点もあるかと思えます。しかし、科学研究費などでも、これまでの

研究費配分のあり方の反省から、研究を開始する段階での研究費配分を重視する傾向にあります。本学会での助成のあり方は、国の方針にも沿うものであり、貴重なものであると考えます。博士論文・修士論文・演習論文の研究の前に、短い期間で完遂できる研究にチャレンジすることは、その後の研究をより充実したものにするにもつながると思います。ただ、報告のあり方においては、課題も抱えていると考えます。いわゆる助成報告書は、二重投稿の対象外となることが多いですが、研究発表のあり方も多様化していますので、本学会としても報告書の定義を明確化・明文化する必要があると考えています。今後、自主研究報告を学外で行う場合を考えても、喫緊の課題と考えていて、皆様にも念頭においていただいた上で、総会等での議論が行われればと考えている次第です。

最後に、末筆ではございますが、本学会の発展とともに、会員の皆様の研究活動のさらなる推進を祈念いたします。



鹿児島県における精神保健福祉士を対象 とした災害対策研修のモデル構築の試み

大学院福祉社会学研究科 福永 康孝 (M1)・溝内 義剛 (M1)
林 岳宏・茶屋道 拓哉

【研究の目的】

熊本地震における精神保健福祉士の活動の実績（被災体験・災害支援／受援等）を基に、都道府県における精神保健福祉士を対象とした災害対策研修のモデル構築を行う。

【研究の方法】

1. 事前情報収集として、鹿児島県精神保健福祉士協会に配置されている13名の災害対策委員を対象とし、災害対策研修のモデル構築に関し、情報収集を行う。
2. 研究者と上述した委員で、熊本県精神保健福祉士協会理事1名を講師として、熊本地震における精神保健福祉士の活動の実績や情報提供を含んだパイロット研修を受講する。
3. パイロット研修の受講後におけるグループインタビューを実施（研修受講者）し、質的なデータを収集する。
4. 得られたデータを基に、鹿児島県における精神保健福祉士を対象とした災害対策研修の企画に関する重点項目を絞り込み研究者間で考察を深め、都道府県における災害対策研修のモデル構築を試みる。

【研究の実施状況】

1. パイロット研修について

日 時：2021年12月18日（土）13：00～14：40

場 所：5号館4階会議室、各教員（林・茶屋道）の研究室等でZoomを使用

講 師：熊本地震を経験して 社会医療法人ましき会 在宅支援部 園田 烈 氏

内 容：① 熊本地震の状況

② 益城病院の被災状況・事前の準備（備災）

③ 職員の被災状況・メンタルヘルス

④ 講師の被災状況（精神保健福祉士として、法人職員として、個人として）

⑤ 専門職団体（精神保健福祉士協会）の動き

2. パイロット研修後のグループインタビューについて

日 時：2021年12月18日（土）14：50～16：50

場 所：5号館4階会議室、各教員（林・茶屋道）の研究室等でZoomを使用

方 法：調査対象者を2グループに分けZoomのブレイクアウトルームを活用

調査内容：

【質問1】簡単な自己紹介もかねて、現在、勤務先で行っている専門職としてのおおまかな活動についてお聞かせください。

【質問2】本日のパイロット研修に対する率直な感想をお願いします。

【質問3】様々なケースでの被災が予想されますが、どのような現実的課題が予想されますか。

SQ3-1 所属する職場での課題

SQ3-2 地域で発生する課題（職場近辺や自宅近辺）

SQ3-3 皆様のご家庭における課題

【質問4】実際に被災した場合、専門職としてどのような行動が必要でしょうか？またそのために必要となるものにはどのようなものがあるでしょうか？

SQ4-1（例）勤務時間帯における災害発生の場合

SQ4-2（例）勤務時間外における災害発生の場合

【質問5】本日のパイロット研修（被災体験・災害支援、受援等）を受講し、専門職として平時から準備できることにはどのようなものがあるでしょうか？

SQ5-1（例）所属する職場での準備

SQ5-2（例）地域での準備や働きかけ

SQ5-3（例）家庭内における準備

【質問6】精神保健福祉士の視点から考えた際、本県のような特徴を有する地方（規模、離島・活火山を有するなど）において予想される災害の特徴やそれに対する脆弱性はどのようなものがあるでしょうか？また、どのような対策が考えられますか？

【質問7】補足質問など

3. 質的なデータに対するおおまかな分析の報告

- ① 精神保健福祉士を対象とした災害対策研修を検討する際、1回の研修で完結できる内容ではなく、複数回・グループワーク等を活用した研修の構築が求められる。例えば、「動機づけ」、「備える（災害前）」、「使う・頼る（被災時）」、「つなげる・つづける（災害後中長期的）」といった時間軸を念頭に置きながら、地域性を重視したグループワークを組み合わせることがポイントとなる。
- ② 特に、「動機づけ」や「備える（災害前）」では、各精神保健福祉士が非日常（災害）のことを日常的に考えるようになること、災害における支援や行政施策に対する基本的理解（災害対策基本法、DPAT・DCAT等専門家チーム、福祉避難所、災害ハザードマップ等に対する基本的理解）、災害目線での地域アセスメント、平時のネットワークづくり、BCP（事業継続計画）を意識化する研修が求められそうである。
- ③ 「使う・頼る（被災時）」や「つなげる・つづける（災害後中長期的）」では、いわゆる「受援」時の具体的対応、被災者・職員に対するメンタルヘルスケア技術の習得（例：PFA）、継続的に防災道具を活用していくための体験を通じた研修などが提案できそうである。

学生を外（フィールド）に連れ出すー「旅する福祉」の真骨頂

高橋 信行

1. 学生とともに一緒に寝泊まりすること

学生を野外に連れ出し、合宿を行う学習方法は、もと（起源）をたどれば、1970年代の自分自身の大学生時代に遡り、その後、大学院生や助手として学生との関わり、北海道で教員していた7年間での経験がベースにあり、北海道時代は、車を5、6台連ね（コンボイ）北海道内を走り回ったりしたものだが、ここでは鹿児島に来てからの話しに絞ろう。

ゼミナール活動や社会調査実習として、合宿場所を選んだのは、「甌島」「屋久島」「種子島」「徳之島」「沖永良部島」「十島村（口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島）」など離島も多いが、「曾於市」「南大隅町」「鹿児島市内」など、宿泊を伴わないプログラムもたくさんある。

当初は、離島等の場所を借りて、演習のプログラム（KJ法などが多かった）を実施し、あわせて、観光なども行っていた。



（2001年甌島合宿）学生が釣ってきた魚をホテルが調理してくれて夕飯で食べたなど和気藹藹とした雰囲気、ゼミ生との交友を深められた。

2. 地域住民等との交流をプログラムに組み入れる

やがて地域との連携活動の中で、社会調査の実施、調査結果の報告等のプログラムが増えてきた。また演習の学生のみならず、関心のある学生を募集し、参加してもらうことも多かった。

(1) 社会調査実習として

本学科で社会調査士の資格を養成していた時代の話である。社会調査実習として、2015年の鹿屋市の旧吾平町神野地区で行った高齢者調査は印象深い。あいにくの雨模様の天気だったが、学生が14名参加、その他社会人（大学院OB）もあり、総勢で17名くらいでの参加だったと思う。鹿屋市社会福祉協議会とのコラボ企画でもある、神野地区高齢者調査では、さまざまな人たちとの協力関係の中で、この企画が実施できた。



鹿屋市社会福祉協議会事務局長の説明を聞く。



訪問する高齢者宅を社協職員とともに確認。



高齢者宅へいざ出発



神野地区公民館での夕食の様子

上の写真は、神野地区公民館での夕食の様子だが、ここには学生（社会調査実習履修生やゼミ生）のほかに、ボランティアで参加した社会人の調査員（本学大学院OB）、社会福祉協議会職員、鹿屋市職員、公民館関係者、食事を作ってくれた地元の婦人会の方々など、さまざまな人の姿がある。

学生たちはここで寝泊まりし、社協職員と夜遅くまで語り合っていた。鹿屋市社協の職員も当時いきのいい人が多かった。

3. 枕崎市高齢者調査の思い出

2010年枕崎市で行った高齢者調査は、枕崎市社会福祉協議会とのコラボ企画であった。これにゼミ生や社会調査実習生、それにボランティアで参加した社会人を交えて、実施した。調査のゲートキーパー的役割をしてくれた枕崎市在住の山崎喜久枝さんは、当時「翔風館で学生たちと一夜をともにして」という一文を寄せてくれた。

調査は12日の17時前後に終了し夕食と入浴を済ませて、19時宿泊先の翔風館に各自集合だった。

反省会では一人ひとりその日の調査の様子や感想を発表しあった。それぞれ短い言葉ながら思いの詰まった内容であった。初めての土地で見ず知らずの家に飛び込んでいきなり他人のプライバシーを聞こうというわけだから、事前通知があったとはいえ、いぶかる向きは当然である。それに対し、勇気を振り絞って立ち向かった学生たちはそれだけで十分賞賛されていると思う。歓迎してくれた家もあれば、拒否をされた家もある。一人で7軒たて続けに断られた学生もいたようだ。

私も面と向かって断られ「なんで？」とむなしく、悲しくなったのに、それが7回、しかもたて続けでは絶望的だったことだろう。

でも彼は最後の家で、調査が済んでお礼を言うと「いやー、私のほうこそありがとう」と礼を言われたといい、感激して胸いっぱいの様子であった。これは生涯忘れられないいい経験になるだろうと思われた。ホテルで個室に分かれるよりははるかに親近感を増し、楽しい雰囲気だった。

布団は女性が舞台の上で、二列にきれいに並べて敷いた。男性の布団はフロアで、中心の先生を丸く取り巻くように殆どの布団は1枚1枚がバラバラに敷いてあった。彼らは夜遅くまでそれぞれが携帯電話に集中している。布団の敷き方と同じで思いもバラバラなのだろうと思った。

早朝、風呂に行かれた先生が朝食を調達してきてくれたのでみんなで食べて、みんなで後片づけした。その片づけ、清掃ぶりがあつぱれであった。台所でのコップ洗いに男子も一時的でなく女子と一緒にずっと加わっている。決して「お手伝い」でなく主導権を握る場面も半々だし、拭いたコップを手際よく棚に整頓しながら並べていく姿もなかなかのものだった。台ふきも見事な手つきでこなし、ゴミ一つ落とさないようにすくい上げている。拭き終わったら手際よく机のあしをたたんで壁際に運んで並べている。床のモップ掃除も隅々まで行き届いている。それも効率よくそれぞれが有効に動いている。これらは周囲の動きをよく観察し、何が十分でどこがまだ不十分なのかを見極める力がなければできない技である。手持無沙汰とか遊んでいるとかは一人もないのである。

当然のことなのにひどく感じ入った。

みんなで一つのをまとめ上げつつあるという目には見えないが大きな力が働いたのではないだろうか。調査は大変だったろうが満足していたことが伺える。

できることなら報告会にも来てほしい。将来の枕崎の進歩の状況まで見届けて欲しいと心ひそかに願ったものだ。

そして確かに報告会も行った。



2011年の報告会（枕崎市内）での模様。

4. おわりに

学生を外に連れ出すことは、それなりにリスクがともなうものである。授業の一環として行う場合は、学生保険が適用されると思うが、微妙な場合は、こちらでも保険に入っておく必要がある。

また特に宿泊を伴うようなもの場合は、それなりに費用もかかる。これまでの活動でも、研究費をつかったり、委託費等から支出したりしている。

また地域の各種団体とのコラボ企画であれば、格安で泊まれる施設があったり、団体が配慮してくれる場合もある。そのためにも、地域とのつながりを常日頃から持つておく必要もあろう。

まだまだ話し足りないことが多いが、また別の機会にお話ししたいと思う。



みんなで一緒に何かを
することはかけがえのない
思い出にもなるよね！
ポポラスも
仲間を探しに旅に出ます



2021年度演習論文テーマ

有村ゼミ

氏名	論文題目
嶋田 魁星	社会的養護における社会福祉士の役割と課題の研究 ～児童養護施設の生活に焦点を当てて～
楠元 文音	保育ソーシャルワーカーに求める障害児への支援の研究

岩崎ゼミ

氏名	論文題目
小串 麻悠美	ものと人と名前の繋がり
大窪 佳奈子	高齢者向けレクリエーションの実践 -手芸が及ぼす心身への効果に関する一考察-
児島 百香	貧困について -子どもの貧困と支援を中心に-
新村 侑一	ロックバンドの歴史とこれから
福田 幸雅	日本と海外における食品ロス・フードロスが社会に及ぼす影響について
町平 阿利奈	障害者の雇用について
横山 颯	ジェンダーレスファッション
和田 佑亜	アルコール依存症について -自殺の関係性をを中心に-
尾上 駿之介	
上園 菜月	LGBTQ +と差別
佐々木 晶	バレエのトウシューズについて -トウシューズやタイツの色に関する一考察-
末次 響	ストレスの心身への影響とその対処法
小城 慶也	
寺田 麻紘	望まない妊娠とその対策
福家 浩太	アニメーション・ゲーム作品における日本と海外の画像描写の違いに関する一考察
平 聖士郎	コロナ禍を乗り越えるためには

藤本 司	コーヒーについて
堀段 怜奈	「鬼滅の刃」人気の背景と福祉的視点に関する一考察
有園 菜央	猫と人の歴史について -猫に侵略されていく人類とひたすらに可愛い猫-
藤元 紀代香	相撲と高齢者の関係
森 星南	セクシュアリティ ～LGBTについて考える～

上田ゼミ

氏 名	論文題目
東原 樹	青年期における娯楽と睡眠の関係
岡本 真輝	睡眠が高齢者に日常生活に及ぼす影響
厚地 柁孝	高齢者の睡眠と精神的健康への関連
田中 瑛大	児童期における睡眠健康教育の現状と課題

大山ゼミ

氏 名	論文題目
平山 翔大	医療ソーシャルワークの歴史
中江 好輝	瀬戸内町の水産業について
松野 ア莉	日本のコミュニティについて
宇戸口 美優	児童養護施設における愛着形成について
仲 愛悠	化粧療法について
水永 望恵	LGBTの現状と課題について
吉原 涼太	ヤングケアラーについて
竹下 侑輝	発達障害について
溝辺 響希	障害者の就労支援について

古賀ゼミ

氏 名	論文題目
竹之内 優作	ノーマライゼーションー世界と日本のインクルーシブ教育ー
福地 夏映	障害者との共生社会について
森 博斗	中途障害者が社会生活を営むのに必要なこと
山下 夕舞	強迫性障害について
元 莉奈	HSPについて
脇 絵里香	フル・インクルーシブ教育の実現に向けてーイタリア・カナダの事例を参考にー
原 彩華	愛着障害児の支援の在り方について 思春期における愛着形成課題の回復プロセスから考える
水口 紗瑛	不登校と発達障害の関連と支援について
川畑 瀬莉	ハンセン病について
竹宮 千智	ダウン症児の発達と肥満への対策と支援
宮原 七海	自閉症児への支援について

佐野ゼミ

氏 名	論文題目
池田 健真	児童虐待とその後の支援についてー親子への支援と家族の再統一ー
山元 結花	障害者福祉の課題と今後の在り方についてー障害者雇用の現状と課題ー
張 明譚	中国コミュニティ（社区）の発展性過程
黒江 眞衣	罪を犯してしまった精神障害者とその家族への支援の在り方について
中谷 華恋	幸せそうに見える人の特徴
白坂 武	依存症について

茶屋道ゼミ

氏 名	論文題目
稲村 陽香	ワークライフバランスにおけるワークシェアリングの在り方
井上 諒	薬物を使用した者に対する更生保護の現状と課題に関する研究

神田 雄飛	日英におけるヤングケアラーの現状と支援策—日本におけるヤングケアラーの支援のあり方—
嶺崎 美紅	障害者に対する災害時の支援課題と対策に関する研究—先行研究の課題の整理と「聞蔵（きくぞう）Ⅱビジュアル（朝日新聞オンライン データベースを活用した分析—
上村 耀	貧困が及ぼす大学生への影響

松元ゼミ

氏 名	論文題目
草宮 綾平	発達障害児者の支援制度とその現状
中窪 倫太郎	中学校数は何に関係しているのか
島木 仁哉	個別の指導計画について

村上ゼミ

氏 名	論文題目
國吉 柚那	韓国ドラマの魅力～「トッケビ」から考える～
國分 美結	カフェの時空間
里藺 花咲	日本の男性アイドルと映像作品
茶圓 美里	死生と心理的発達

山下ゼミ

氏 名	論文題目
肥後 有希	里親制度—その仕組みと現状
松下 大樹	ひとり親家庭に対する支援制度—その現状と課題
田方 聖樹	ゲーム障害—その特徴と症状—



鹿児島国際大学社会福祉学会会則

【総 則】

第1条 本会は、鹿児島国際大学社会福祉学会と称し、本会の事務所を鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科に置く。

第2条 本会は、学術研究を推進し、会員相互の学問的交流を促進するとともに、地域社会の文化的発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
(ア) 会報ならびに機関紙の編集・発行
(イ) 研究会・講演会等の開催
(ウ) その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事業

【組 織】

第4条 1. 本会は、福祉社会学部社会福祉学科並びに大学院福祉社会学研究科に在籍する学生および両科の専任教員をもって会員とする。
2. 準会員については、別に定める。

第5条 1. 本会に次の機関を置く。
(1) 会長
(2) 総会
(3) 運営委員会
(4) 監査委員
2. 会長は、社会福祉学科長とする。
3. 運営委員(教員4名、学生8名以上)および監査委員(教員2名、学生2名)は、社会福祉学科で選出し、総会の承認を得るものとする。
4. 前項の各位委員の任期は、教員については2年、学生委員については1年とする。ただし、再任は妨げないものとする。

【機 関】

第6条 1. 会長は、本会を代表する。
2. 会長は、年1回の定期総会を招集しなければならない。
3. 会長は、運営委員会の議決に基づいて臨時総会を招集することができる。

第7条 総会は、本会の最高議決機関である。

第8条 1. 運営委員会は、総会の承認により、学会の運営にあたる。
2. 運営委員会は、委員長(教員)と副委員長(学生)の各1名を互選する。
(1) 運営委員長は、運営委員会を代表し、定期および臨時に運営委員会を招集する。
(2) 運営委員会は、そのもとに必要に応じて委員会を置くことができる。
3. 運営委員会は、教員委員および学生委員のそれぞれ過半数の出席によって成立する。

4. 運営委員会は、次の事項を審議決定しなければならない。
 - (1) 年間事業計画
 - (2) 予算案および決算書
 - (3) 会則の改正ならびに諸規定承認・改廃
 - (4) その他必要な事項
5. 運営委員会の議決は、出席した教員委員および学生委員のそれぞれの過半数の賛成で決する。

[財 政]

第9条 教員会員の会費は、年額2,500円とし、年度初めに納入する。学生会員の会費は、年額2,500円とし、入学時に一括納入する。

第10条 1. 本会の経費は、会費・補助金・寄付金でまかなう。
2. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第11条 会費の徴収、保管および支払いについては、大学事務局に委任するものとする。

第12条 運営委員会は、毎年会計年度終了後2ヶ月以内に決算を行い、監査委員の監査を受けたいえで総会に報告し、その承認を得なければならない。

[改廃手続]

第13条 本会則の改廃は、運営委員が発議し、総会の決議を経なければならない。

附則

1. この会則は、昭和57年4月1日から施行する。
2. この会則は、平成13年7月27日に改正し、施行する。
3. この会則は、平成15年7月4日に改正し、施行する。
4. この会則は、平成18年4月1日に改正し、施行する。
5. この会則は、平成20年4月1日に改正し、施行する。

2020 (令和2年)年度 鹿児島国際大学 社会福祉学会 収支決算報告

摘 要		金 額	予 算
前年度繰越金		2,001,133	2,001,133
収 入	会 費	971,250	971,275 897,500
	参加費	0	
	雑収入	25	
	寄付金	0	
収 入 計		971,275	2,972,408 2,898,633
支 出	『演習論文要旨集』発行費	143,000	100,000
	会議費	0	10,000
	自主研究助成費	0	150,000
	新入生歓迎行事費	0	170,000
	卒業パーティー開催費	0	150,000
	『ゆうかり』発行費	462,000	350,000
	講演会開催費	0	0
	事務費	0	10,000
	通信費	1,100	10,000
	特別事業費	0	0
	学生アルバイト料	0	0
	会 費	20,000	50,000
支 出 計		626,100	1,000,000
当年度未残高		2,346,308	



挨拶

2021（令和3）年度、鹿児島国際大学社会福祉学会誌『ゆうかり』第21号の作成において社会福祉学会学生運営委員長を担当させていただいた吉原拳寿です。今回私たちは、『ゆうかり』を作成するにあたり、ゆうかり委員の活動を掲載させていただきました。このような取り組みを行うにあたり、運営委員の皆様がそれぞれの役割と責任をもって主体的に行動していただけたことで第21号の『ゆうかり』を作成することができました。様々なアイデアと工夫を凝らし、とても面白い内容になっていますのでぜひ読んでみてください。

さて、話は変わりますが今年度は昨年度同様、新型コロナウイルス（COVID-19）に頭を悩ませる年ではなかったでしょうか。昨年度に比べれば新しい生活様式にも慣れ始め、どこに行くにもマスクを着用し、アルコール消毒を無意識的に行うなど、はじめは億劫に感じていたことも段々と生活の一部になってきました。しかしながら、やはり不自由さは感じるもので、「コロナウイルスさえなければ…」と思うことも未だに多くあります。そんななか、今年は東京オリンピックが開催され、世界と戦う日本人選手の姿に感動と勇気を貰ったという人も多いのではないのでしょうか。毎日のように報道されていたコロナウイルス関連のニュースもオリンピック一色になり、この時ばかりはコロナウイルスを忘れて日本中が盛り上がっていたように思います。このような「コロナを忘れる時間」が私は大切なのではないかと思います。友人と話す時、おいしいご飯を食べる時など、ほんの一瞬でもコロナウイルスを忘れてなにかに没頭する時間を見つけてことができれば、落ち込んだ気持ちを少しずつでも前に進めることができると思います。皆さんもそういった時間を見つけ、来年度も頑張りましょう。

最後になりますが、2021年度の社会福祉学会には下記のとおり、多数の運営委員の皆様が参加してくださいました。上田雪子先生をはじめ、学生、教員様々な方々のお力添えがなければこの第21号の『ゆうかり』は作成できなかつたと感じています。この場をお借りして感謝の言葉を綴らせていただきたいと思います。「ありがとうございました」。

編集後記

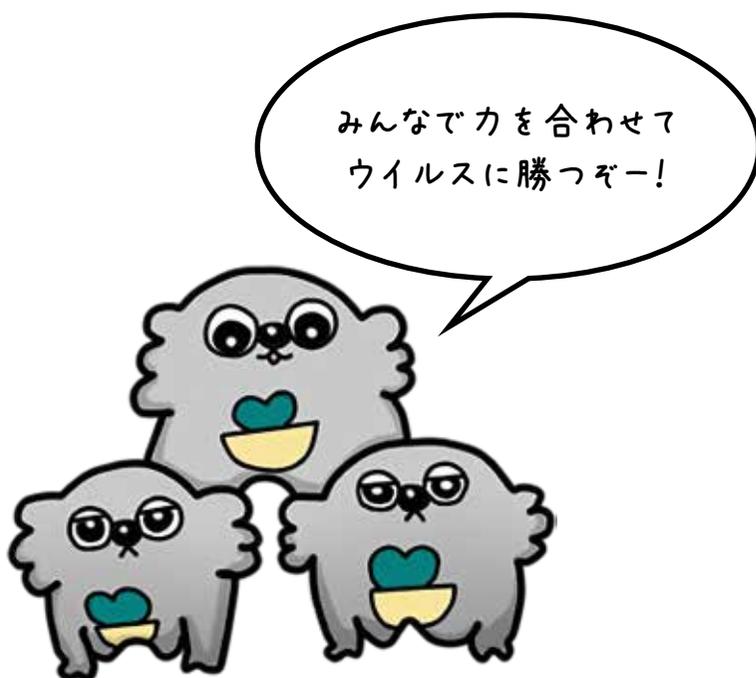
新型コロナウイルスの影響で遅れましたが、ゆうかり委員としての活動ができてよかったと思います。今回のゆうかり委員の活動で初めて花壇作りに携わり、今までスルーしてしまっていた花壇を見ることが少し楽しみになりました。普段なんとなく見かけていたものの裏側を体験することができ楽しかったです。皆さんにもぜひ花壇の花の成長を見守ってほしいと思います。（三浦仁太）

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響もあり思うような活動ができず大変でした。しかし、新型コロナウイルスの影響下でも皆で協力しあい先生の指導のもと会議や相談を重ねてこの緑化活動を行うことができました。地域ネコについての活動ができなかったのは残念ですが良い経験ができました。

（飯田珠莉）

初めてゆうかり委員として参加させていただきました。先輩や他のクラスの学生との関わりや花壇の手入れ、大学のことについてたくさん知ることができました。参加できないこともありましたが、自分自信としては、良い経験になったと思います。（榎園琉斗）

ゆうかり第21号編集を担当した、吉原拳寿さん、三浦仁太さん、飯田珠莉さん、榎園琉斗さん、佐藤遼河さん、野田葵心さんの6名の学生に心より感謝いたします。（ゆうかり編集担当 上田雪子 山下利恵子）



本誌ロゴ、ポボラスイラストに関しては、村上絢音さん、村上瑤子さんからのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

2021(令和3)年度 鹿児島国際大学社会福祉学会 運営委員

教員運営委員 上田 雪子(運営委員長) 古賀 政文 林 岳宏 山下 利恵子

学生運営委員

1年：永里 太一 榎園 琉斗 飯田 珠莉 野田 葵心 佐藤 遼河 坂元 陽菜 平原 愛
坂元 真心 上野 実玖 崎向 真衣 小牧 可鈴 福元 幸希 幾留 美輝

3年：三浦 仁太 三谷 茂将 外園 翔一朗 湯坐 乃音 永江 優衣 松尾 蓮華 青柳 涼華
牧 優花 良山 大知

4年：吉原 举寿 茶園 美里

会計監査委員 (教員) 有村 玲香 永富 大輔 (学生) 松永 みなみ 牧原 拓実

鹿児島国際大学社会福祉学会誌

ゆうかり 第21号

発行 2022年3月19日

編集 鹿児島国際大学社会福祉学会

住所 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1
Tel 099(261)3211(代)

印刷・製本 有限会社 広和印刷
Tel 099(222)3522

